

	対 策	留意点
基本的な考え方	○ウィルスを入れない ・検温カードで体温や体調の確認	検温カードにチェックする
	○ウィルスが入ってしまったかもしれない… ・朝だけでなく、いつでも健康観察 ・教室に体温計の設置	体温計は、担任以外の先生もわかるような場所に設置する。生徒にも伝えておく
	○感染させない ・常時マスク着用を徹底する ・せっけんでの手洗い（外から教室等に入るとき・トイレの後・給食の前後） ・換気の徹底（教室・廊下・体育館） ・人との距離を1～2メートルあける（目安：両手を伸ばした距離） ・教室に消毒液の設置 ・水筒を持参する ・生徒同士で物の貸し借りはしない ・教卓と生徒の席を普段より広くする	マスクを外す場合、半分に折って保管する 手洗いはせっけんを泡立て 30 秒以上行う 2 方向の窓を開ける 消毒は日の当たらない場所におく（生徒にも場所を伝える）消毒がなくなったり、使用期限が過ぎたりしたら保健室で補充する
	3 つの条件（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発声）が同時に重なる場を避けることはもちろんのこと、1 つ 1 つの条件が発生しないよう配慮する	* 教育活動の再開に関する Q & A （ 5 / 1 3 ）より
登校時	マスク着用が基本であるが、息苦しい場合ははずしてもよい。 自転車置き場で全員マスクを着用する	
	教室・廊下の換気（保健委員会生徒）	
	荷物を置いたら手を洗う	
	検温カードの提出	担任がチェック
	検温していない生徒は、保健室または教室で検温する	体温 37, 5 度以上、体調不良の生徒は早退する
朝の会	健康観察（顔色など普段と変わらないか観察する）	健康観察簿は朝のうちに職員室に戻す
授業中	常時、少し窓を開けて換気する	
	エアコン使用時も同様に換気する。扇風機も一緒に使用する	
	共用する用具や備品を使用したら、手洗いをさせる。消毒できるものは消毒する	
	・音楽科における狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動 ・家庭科における調理等の実習 ・保健体育科における生徒が密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い運動 ・生徒が密集して長時間活動するグループ活動	* 教育活動の再開に関する Q & A （ 5 / 1 3 ）より
	各教科の特性を踏まえ、感染防止に努める	
	タブレットの消毒	後日、教育委員会から回答あり
	特別教室の使用後は、教科担任が必要な場所を消毒する	
休み時間	全部の窓を開け換気する（保健委員会生徒）	気温などに留意する
トイレ・水道	混んでいるときは、廊下で待つようにする	学年で対応する
	トイレの窓を開けておく	2, 3 階窓から顔を出さないように注意する
	洋式トイレの使用後はふたを閉めて流す	
給食	せっけんで手を洗い、アルコールで消毒する	水道が混雑するので、学年で対応する
	配膳台と生徒の机を消毒された台拭きで拭く	
	給食当番のお箸・牛乳・ストローを配る際には使い捨て手袋を着用する	
	全員が並ばないよう工夫する	学級で
	一度配膳されたおかずなどを食缶に戻さない	
	クローバー登校生徒も、できるだけ給食を教室に取りにいけるよう促す	階段まで取りに行くなど段階的に
	机を向かい合わせにしない	
	話をしないで食べる	
	残った物は、食べ始める前に教師が配る	おたまなどたくさんの生徒が触らないようにする
	片付けも全員が並ばないよう工夫する	
	食器は重ねず、自分で片づける	
	片付け後、手を洗う	
歯みがき	生徒同士、距離をとって、できるだけ口を閉じてみがく	習慣化するまで、学年で対応
	歯みがきをしながら話をしない	
	歯みがきをしながら移動しない	
	水道が混雑するので、時間をずらすなど工夫する	

昼休み	全部の窓を開け換気する（保健委員会生徒）	
	廊下でたまらない	話したい生徒は校庭にでるなど工夫する
図書室の使い方	せっけんで手を洗ってから入室する	
	換気をする（図書委員会）	
	借りた本を返す場合、返却ボックスに入れ、2～3日程度図書室で保管してから貸し出す	
清掃	換気をする	
	前後に集合しない	
	話をしない	
	トイレは消毒を行う	手袋を着用し、便器を拭く前に消毒する
	終了後はせっけんで手を洗う	
下校	自転車置き場でたまらないで、速やかに下校する	
	共用部分の消毒を行う（ドア、手すり、スイッチ、水道のじゃぐち、トイレなど）	担当者が不在の場合は、学年で対応する
部活動	体育館や剣道場は換気を行う	
	使用する器具等は使用前に消毒する	
	運動不足になっている生徒もいると考えられるため、十分な準備運動を行うとともに、身体に過度な負担のかかる運動をさける	怪我防止に十分に留意する
	生徒が密集する活動や、生徒が近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声したりする活動については、密集せずに距離をとって行うことができるような活動の工夫をする	
	部室の使用は、短時間にし、一斉に利用しない	
	具合が悪い生徒は参加しない	
	終了後は、せっけんで手を洗う	
保健室での対応	具合が悪い生徒はすぐに早退させる	症状がなくなるまで自宅で休養する（出席停止）
	保護者の迎えを待つ場合には、保健室のベッドある部屋で待機する	
	具合が悪い生徒が来室した場合、保健室登校生徒はクローバーへ移動する	
	生徒がベッドで休んだ場合は、換気を十分に行い、布団、枕、カーテンなどを消毒する。使用したタオルは、消毒をした後、洗濯機に入れる	
	けがの手当てや具合の悪い生徒の対応をする場合は、使い捨てのゴム手袋やフェイスシールドを使用する	ワゴンの下の段にある
	使用した器具は消毒する	
	体育着の貸し出しは、下の体育着のみとする。返却された体育着は3日程度貸し出さない	
教育相談室の利用	相談・面談する場合には、窓とドアを開け2メートル間隔をあける。それができない場合には、視聴覚教室などの広い部屋で換気をしながら相談する	
	クローバー登校の生徒は、給食で使用しない	話をしながら給食は食べてはいけないため
その他	同居の家族にも健康管理に取り組んでいただくよう呼びかける	
	ウィルスの生存期間 （段ボール：24時間、銅：4～8時間、プラスチック・ステンレス：2～3日）	消毒、保管の参考に
	嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることがないようにする	
	ハートフルチェックなどを活用し、心のケアを行う	
	職員も毎朝検温し、各自の検温カードに記入する（土日も）	